

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373600283		
法人名	社会福祉法人 サン・ライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋		
所在地	江南市北山町東212		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&liyosvoCd=2373600283-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成24年9月24日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者様のできる事を見極めて、日常生活の中でやりがいや生きがいを持って頂ける様働きかけている。 ・サービス担当者会議の前に、職員同士で話し合いの場を持ち、細かな部分まで支援方法を検討できている。 ・外出の機会を多く持てる様にしている。個別外出にて、本人様の希望の場所へ出かけられる様努めている。 ・その方の一日のゆとりと充実を考えたアクティビティーへの取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>桜の名所として有名な五条川沿いに広がる田園の中にホームは位置している。毎日の散歩は畑の作物の生育を楽しみながらいろんなコースを選択出来る。「当たり前で普通の生活を、心がけましょう。いつも笑顔で、感謝の言葉をより多くしましょう。家族、地域との連携を図り、共にあゆみましょう。」を運営理念としている。居室担当が入居者や家族の思いを形にして実践出来る様に窓口となっている。入浴回数の改善、個別外出の取り組み、やりがいや役割を引き出し生きる喜びが笑顔や感謝の言葉となり自然に出てくるアイデアを使って取り組んでいる。ゆったりと過ごす中につぶやく言葉を拾い、つぶやきを引き出す意識で寄り添うサポートにも力を注いでいる。開所して10年、地域との歩みは入居者の楽しみとなっているが課題もあり運営推進会議や職員の意見、情報を取り入れながら地元の交流を大切に捉え門戸を開いている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に提示しており、GHの勉強会でも理念について話し合った。	開設時の管理者と職員で話し合って運営理念を作り上げ玄関に掲示している。年度初めには新しい職員を含めグループホームの理念について学ぶ機会があった。	定期的に話し合う機会を持ち、日々の業務の取り組みの中で理念を噛み砕きながら理解を深め共有し、実践に繋げることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー、花屋、コンビニ、郵便局など週に1回程度は外出している。	地域の清掃に職員が参加、入居者は毎日の散歩でゴミ拾いや近所の人達と挨拶を交わして交流をしている。小・中学校の廃品回収、ボランティアの受け入れ、地元商店の活用、夏祭り等の参加で交流を日常生活に取り入れている。	各区長や民生委員との交流で地域の情報や意見を貰っている。事業所の存在価値や認知症の理解に繋がる発信の場として地域に貢献できる積極的な機会に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域の方に向けて話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、地域の方とも活発な意見交換が行われている。	開催予定の案内は全家族にしている。家族、北山・南山・天王・木賀西の各区長と民生委員、地域包括支援センター職員、市職員の参加がある。事業計画や現状の報告だけでなく相談をしたり活発な意見交換で名案をサービスの改善や向上に活かしている。	地域の医療関係者や消防関係者にも参加を働きかけ各方面の専門分野から意見や提案が得られる機会作りの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会の職員とは細目に連絡を取り、利用者様との金銭管理など、協力的体制がとれている。	江南市と小牧市の社会福祉協議会の連携で相談に乗ってもらったり適切な意見を貰っている。市の担当者とは書類の提出等で定期的に連絡や訪問をしている。	本人の持てる力や市町村担当者と積極的に係わる機会として、介護保険の更新時に入居者本人が窓口に出かけて申請出来る支援について、本人や家族、職員で話し合われたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は、身体拘束に関する勉強会を実施しており、全職員理解できている。日勤帯は玄関の施錠を行っていない。	玄関は日中施錠をしていない。共用空間の広い掃き出し口は室温調整のため網戸になっており、自由に出ることが可能で開放的である。動きが把握出来る風鈴やセンサーマット等の活用で当たり前で普通の環境を提供出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は高齢者虐待についての勉強会を実施しており、全職員理解できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、権利擁護についての勉強会を実施している。実際に成年後見人制度をしようしている方はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をとり、ご家族へ重要事項と契約書の説明を行っている。 利用料改定の際は、全てのご家族から同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、よりあいにて利用者様からの意見を聞いている。年に2回、家族会の実施と満足度アンケートを行っている。適宜つづやきを拾い、会議で挙げ、ケアに反映させている。また、運営推進会議には全御家族へ案内を出し、出席して頂ける様努めている。	満足度アンケートを実施、職員と入居者が集う「よりあい」が月に1回あり、意見や思いを語り、出来る事はすぐ実践している。年に2回行事と併せて家族会を開催している。日頃の様子は毎月の「ほてい通信」を写真やコメントを掲載して知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回GH会議を実施し、全職員が発言する場があり、その意見を業務などに反映させている。	毎月の会議では意見やアイデアを出し合い検討している。参加出来ない時は前もって意見を提出し、居ながらに参加出来る配慮がある。全職員がサービスの質や向上に係われる仕組みを持ち、反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを使用し、所長との面談を実施している。職員の状況に応じて、部署の異動なども行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部問わず、職員個々のレベルに合った研修には積極的に参加できている。資格取得に関する研修等も参加しやすい。他事業所への研修を行い、自事業所との比較を行い、良いところを取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のGHとの交換研修や、地域の他法人のGH職員との交流会があり、参加している。愛知県のGH連絡協議会へ加入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、ご家族から、生活暦や嗜好などをお聞きしている。また、あらかじめ居室担当者を決め、ご家族の対応を行いやすくしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時は、多く時間を取り、ご家族の話を聞くようにしている。また、施設利用が初めてで不安を持って見える場合には、お試し利用をして頂き、その時の様子を詳しくお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に使用していたサービス事業所の職員や介護支援専門員から情報収集を行っている。ご家族の希望や都合により、場合によっては往診や受診支援(ヘルパーによる)を導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様と関わる時間は、何をすることも利用者様と職員とで一緒に行う様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご家族の体調を伺ったり、都合をお聞きし、事業所側がご家族の都合に合わせている。月に1回GH新聞を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くの夏祭りに参加しに行ったり、なじみの喫茶店やスーパーに出掛けたりしている。また、近所だった方が面会にみえた際は、ゆっくりと話しをして頂ける様に場所を提供している。	入居しても家族や親族との関係を継続出来るよう協力をお願いする事がある。子供の頃通っていた高校まで足を延ばしたり、年賀状を送るサポートも実施している。近所の方やお稽古の先生などの面会時はゆっくり過せる環境と時間を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に食事席の見直しを行い、利用者様が孤立しない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が原因で退所になった場合も、退所後に法人内の施設に入所して頂ける様段取りをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	つぶやきを拾いながら、それを日常生活の中や個別外出にて反映させている。	「つぶやき」シートに何時、誰が、どんな思いで、どのような対応が出来るか、対応したか、その結果どうであったか等を記入している。各職員は入居者1人のつぶやきを3回は拾う目標を立て本人本位の検討をし、思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などにご家族から今までの生活歴を伺ったり、日々の会話の中から本人より伺い、記録に残し、職員間での把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の様子は、個人記録へ残し、バイタル、入浴状況、食事摂取量なども毎日記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新前にはケアマネ、ハウスマネージャ、居室担当でモニタリングを実施している。そこで挙げた意見をもっとに介護計画を作成している。	入居時の介護計画は本人と家族の意向や医療面の情報から暫定プランを作成している。職員は生活状況や本人の様子から出来る事をどの様に支援するか等の視点で現状を記録している。計画作成担当者は居室担当を中心にモニタリングを実施して現状に即した計画を職員と共に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様と関わった中で気づいた事は、個人記録へ残し、重要な内容は業務日誌へ挙げて職員間で把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活保護の方に対する金銭管理の方法を社会福祉協議会へ相談したり、ホームヘルパーを利用しての受診支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い物、お花など地域の商店を利用している。また、地域の子供達に通っている教室にボランティアを依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診している医療機関へ入所後も引き続き受診して頂ける様、ご家族へもお伝えしている。困難な場合は、2週間に一度の往診を受けて頂いている。	ご家族に少しでも入居者と接していただくために、かかりつけ医療機関への受診はご家族へお願いし、訪問診療を受けているケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、1週間に1度看護師にてバイタルや心身状態の確認を行って頂いている。緊急時すぐに看護師と連絡が取れる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院である総合病院や、認知症専門の医療機関とは、入院が必要になった場合は連絡を取り合っている。利用者様の状態も随時相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設では、看取りケアは実施していない事を入所時にご家族へ説明し、同意書を頂いている。利用者様の状態に変化があった場合にはすぐご家族へもお伝えし、対応を相談しながら決めている。	入居時にホームとして看取りケアを実施しない旨しっかりとご家族に説明しており、重度化の兆候が見られた場合にはご家族と相談しながら、同一法人の入所型施設の紹介も含め、ご本人やご家族が困らないよう対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、年に1回勉強会を実施している。マニュアルの確認も行っている。事故報告書が挙げた際は、毎月のGH会議にて対策を全職員で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、GH内にて避難訓練を実施している。また、年に1度、消防署の立会いのもと、利用者様も含めての通報・避難訓練を実施している。常備食も3日分備えてある。定期的に、緊急連絡網のテストも行っている。	年に2回の避難訓練は消防署の立会いや隣接のデイサービスと合同の機会がある。入居者と職員で話し合う「よりあい」でつぶやき、意見が出ればすぐに避難経路の確認や避難を実施して日常の中で身に付く取り組みを支援している。備蓄品の保管場所については全職員が把握している。	水や食料、燃料等の備えに加えて、入居者の疾患や処方薬の情報についてどのような対策が取れるか、を話し合った事があるが具体策は決まっていない。又近隣の住民と協力し合える事や話し合う機会作りの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、利用者様を人生の先輩である事を常に意識して対応をしている。	常に人生の先輩である事を念頭に置き、感謝や肯定の言葉で接している。排泄や入浴の場面では正面に立たない、部屋に入るときは声をかける、ノックをするなどプライバシーに配慮したり、人としての礼儀を持って実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先、水分補給時の飲み物、入浴など日常生活の中での色々な場合で利用者様に選択して頂ける様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でどんな場面でも利用者様の意向を伺う様にしている。入浴も利用者様のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に何度も着替えをされる方は、必要以上の声掛けは行わず、見守っている。また、行事や外出の際は、化粧なども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、3食とも食事の準備は、職員と利用者様とで行っている。食事も出勤職員は利用者様と同じテーブルで食べている。片付けは、利用者様中心で行って頂き、職員は声掛けと見守りを行っている。また、月に一度は利用者様の希望を取り入れ、外食や出前など行っている。	毎日の献立は入居者と職員が話し合ったり、食べたい物を聞いたりしながら決めている。買い物や調理は一人ひとりの希望や力を活かしながら取り組んでいる。入居者は配膳・下膳・食器洗いを職員の声かけで生き活きと行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状況に合わせて、食事形態を変えたり、食事量の調整を行っている。また、体調に合わせて捕食を提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者様に対して、毎食後の口腔ケアは実施していない。夕食後は、全利用者様に口腔ケアの声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関して、こまめに記録を取り、全職員で把握し、紙パンツから布パンツへの移行を常に検討している。	居室、トイレ、お風呂等場所が分かり易い工夫がある。見易い高さ、字の大きさ、使い慣れた言葉や2種類の読み方で明記している。積極的に動ける事で失敗を少なく、快適に過ごせる自立にむけた環境に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳酸菌を摂取して頂いたり、生野菜を摂取して頂き、自然排便を促す様に取り組んでいる。下剤などは、極力使用しない様になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっている。しかし、毎日全員の方へ声掛けし、入浴して頂いている。入浴の順番は決まっておらず、利用者様の希望に合わせて行っている。	毎日入浴の希望に対応出来る改善を行った。昭和歌謡曲を聴きながら2人一組でお風呂を楽しむ取り組みをしている。季節感がある入浴剤や柚子を入れることもある。菖蒲や蓬、その他の利用も意見を出し合い検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にも居室で休んで頂く時間を設けているが、全利用者様に強制には行っていない。就寝時間も個々の利用者様に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を受け取った時点で、処方箋の確認を行い、内容の把握を行っている。また服薬マニュアルを毎日確認する様になっている。服薬時にも、チェック表を確認しながら行っており、誤薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様の状態に合わせて、役割や楽しみ事を抽出し、毎日実施できる様、職員から働きかけている。また、その成果が目に見えて分かる様な工夫を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか事前の計画なしでの外出は行えていない。しかし、週に1度は外出できる様に努めている。	食材の買い物、喫茶店、日用雑貨や衣料品の買い物、外食等で出かけられる事に偏りが無い外出支援をしている。毎日の散歩がただ歩くのみの目的にならないよう、時には歩く目的や意味が日常と異なることで本人の意欲を引き出し、当たり前前の生活を営むことに繋げる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に財布をお預かりしており、買い物や外出時には、その財布を持って行っている。そこでお菓子や日用品など購入して頂き、利用者様によっては、財布から支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を持ってみえる方もあり、居室でご家族と自由に電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居室には、行事の写真や余暇の時間に作成した季節の壁画が提示してある。テレビが点いていない時は、有線で音楽を流している。入浴中も有線で音楽を流している。掃除の時には窓を開け換気を行うと共に、消臭剤を使用し、消臭対策も行っている。	両側に大きな吐き出し口があり、明るく開放感がある。有線の柔らかい音色が流れており、動きの把握センサー音は耳につかない環境で死角になる場所も安全確保を提供している。食席は定期的に変更をして気分転換や入居者間を深めることに繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファには、気のあった利用者様同士で座って頂き、過ごして頂いている。各食事席も定期的に見直している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は全て利用者様が自宅で使用されていたものを持って来て頂いている。場合によっては、転倒や怪我の危険のある家具であった際は、ご家族へ相談のもと、取り替えて頂いている。	基本的に自宅ですごしていた際の使い慣れたものをご家族に持ってきてもらい、安心する居室の雰囲気作りができています。毎朝換気と共にリビングなど共有部分も含め、入居者は職員と掃除をしています。	日常の床や窓拭きだけでなく、定期的に家具の上や遺影等、入居者では目につきにくい拭き掃除も実施し、更に居心地の良い居室づくりを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には、貼り紙をしている。居室の扉にも名前を貼らせて頂いている。リビングには、日替わりで使用できる大きなカレンダーを設置しており、利用者様に日付を換えて頂くと同時に分り易いものとなっている。		